



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 9月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.175 2021.9

紹介内容 (8/1~8/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：大豆摘芯栽培現地検討会を開催しました
 - 農業振興課：集落営農の経営の発展を支援しています
 - 亘理農改：第2回水稻乾田直播栽培勉強会を開催しました
 - 石巻農改：パソコン簿記研修会
 - 栗原農改：集落営農組織法人化研修会を開催しました
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました
 - 石巻農改：集落営農法人が事業承継をテーマに先進地研修を実施！
 - 登米農改：農業法人職員の社会人基礎力向上セミナーを開催しました
 - 亘理農改：岩沼市で加工用ばれいしょの収穫が始まりました
 - 登米農改：大豆検討会を開催しました
 - 美里農改：大崎市田尻に新たな農事組合法人が設立されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 登米農改：みやぎ農業未来塾「新規就農者向け経営研修会」を開催しました
 - 仙台農改：農業大学の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブが親子の農業体験（小学生向け）で栽培指導をしました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブの視察研修会を開催しました！
 - 栗原農改：就労環境整備に関する研修会「これからの農業は女性と輝く！！」を開催しました
 - 大崎農改：中山間地の農地整備事業における担い手育成について協議しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 気仙沼農改：需要期出荷に向けた新たな露地電照技術による夏秋ぎく栽培の現地検討会を開催しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 登米農改：JAみやぎ登米なす部会現地検討会が開催されました
 - 農業振興課：シャインマスカットの栽培支援に取り組んでおります
 - 亘理農改：上余田芹（せり）出荷組合のせり種田調査を行いました！
 - 気仙沼農改：大阪市場向けきく類の現地検討会を行いました
 - 登米農改：登米市産ひまわりを登米市教育資料館にて展示中
 - 仙台農改：自社農園で栽培したぶどうを100%使用したワインの完成報告について
 - 石巻農改：アスパラガス販売戦略会議の開催
 - 栗原農改：らっきょう栽培講習会が開催されました
 - 大崎農改：JA古川で秋冬春菊栽培講習会が開催されました
 - 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会現地検討会が開催されました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 登米農改：JAみやぎ登米寒じめ野菜部会の栽培講習会が開かれました
 - 石巻農改：JAいしのまきせり部会現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：加工用トマトの収穫が始まりました
 - 亘理農改：下余田地区のせりの種田調査に参加しました
 - 栗原農改：産直野菜塾が開催されました
 - 仙台農改：大郷町前川地区でえだまめの収穫が始まりました
 - 亘理農改：亘理地域では「シャインマスカット」PR用ロゴマークの作成を検討中です！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 登米農改：水稲「つきあかり」肥料展示ほ現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：大豆の現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：JA古川肉牛部会巡回検討会が開催されました
 - 大崎農改：JA古川大豆現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：飼料用トウモロコシの展示ほの生育状況について
 - 登米農改：大豆種子生産ほ場の第1期ほ場審査を行いました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 大崎農改：色麻町の特産品「えごま」の生育調査を行いました！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○大豆摘芯栽培現地検討会を開催しました 令和3年8月2日 仙台農業改良普及センター



大郷町では令和3年産大豆の作付面積が約300haとなっており、「ミヤギシロメ」を中心に栽培されています。しかし蔓化倒伏による収量減が課題となっていました。

この対策技術として古川農業試験場から摘芯栽培に関する研究成果が発表されたことから、当該技術の理解及び技術習得を目的に、7月21日、大郷町の大豆生産法人等を対象に摘芯栽培の現地検討会を開催しました。

当日は生産者18人が出席し、古川農業試験場の講師による講義の後、大豆ほ場に移動し、すでに摘芯作業が終了した大豆の生育状況を確認するとともに、実際の摘芯作業の手法を学びました。

講師からの具体的な解説及び摘芯作業の実演に加えて、生産者同士による活発な情報交換も行われ、生産者の技術導入に対する不安が解消されたようでした。

○集落営農の経営の発展を支援しています 令和3年8月4日 農業振興課



宮城県農業振興課では、令和3年度より、地域農業の重要な担い手である集落営農組織を支援対象として、「集落営農モデル支援事業」を実施しています。今年度は、県内の3つの集落営農組織を支援対象とし、主に組織の経営発展や法人化に向け、必要な民間専門家の派遣による伴走型の支援を行っています。

7月15日、宮城県庁において、今年度第1回の支援検討会議を開催しました。会議には本事業の受託者、支援対象である3つの集落営農組織を管轄する農業改良普及センターの担当者、当該担当者が出席して、支援対象組織に対する支援の内容や成果目標について検討し、活発な意見交換が行われました。

現在、本事業の支援対象である3つの集落営農組織のうち、2組織が年内の法人化を目指しており、普及センターが中心となって法人化に向けた各種支援を行っているところです。近いうちに、地域農業を守る新たな集落営農法人の誕生が期待されます。

○第2回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました 令和3年8月10日 巨理農業改良普及センター



巨理農業改良普及センターでは、令和元年度から、乾田直播栽培を志向する経営体の技術力向上を目的に「直播栽培勉強会」を立ち上げ、参加者同士の情報交換や技術的課題の対策などの検討を行っています。

7月29日、岩沼市3か所の水稲乾田直播栽培ほ場で、今年度第2回目となる勉強会を開催し、農業者16人（8法人）、関係機関合わせて30人が参加しました。

今回は、栽培経験の長い生産者と初めて乾田直播に取り組んだ生産者それぞれが、成功・失敗した内容を話し合う場をテーマに、参加者全員で生育状況を確認し、今後の管理について検討を行いました。生産者自ら耕種概要を説明し、成功・失敗事例を含め、東北農業研究センター、古川農業試験場の研究員の方々からアドバイスを頂きました。

普及センターでは、乾田直播栽培技術の高位平準化に向けて、今後も勉強会を開催していきます。

○パソコン簿記研修会 令和3年8月12日 石巻農業改良普及センター



石巻管内では自らの経営改善と経営管理能力の向上を目指す若手農業者が多く、昨年度からパソコンによる簿記帳に関する研修会を開催してほしいとの要望があったため、農業簿記ソフトを利用した簿記帳に関する研修会を開催しました。

今回の研修会では、パソコン簿記の基本的な操作や勘定科目の設定方法、簡易振替伝票の入力などの実習を行いました。

参加者は5名とやや少なかつたものの、講師のわかりやすい説明により実際の設定や入力などについて全員が滞りなく操作されており、今回の内容については十分に御理解いただけたものと思われま

す。普及センターでは、令和4年1月に決算処理や次年度繰越などを中心とした2回目の研修会を開催する計画で、今後も若手農業者を中心とした経営管理能力の向上に向けた支援を行ってまいります。

○集落営農組織法人化研修会を開催しました 令和3年8月12日 栗原農業改良普及センター



7月30日・31日の2日間、法人化を目指す集落営農組織「有賀営農組合」の役員を対象とした研修会を開催し、9名が参加しました。

管内の集落営農組織の多くは、経営所得安定対策を契機に設立されていますが、中心となる担い手の高齢化が進み、地域農業を今後どのようにしていくかの検討が必要な時期にきています。

普及センターでは、集落の農地を10年後、20年後も守っていききたいという思いを強く持つ有賀営農組合の法人化を支援するプロジェクト課題に取り組んでおり、今回の研修会を実施しました。

1日目は、講師の小林哲平弁護士から「法人化による影響と法人の種類について」講義をいただき、法人形態ごとのメリット・デメリットについて学びました。

2日目は、前日の研修内容を踏まえて、組合長が主体となって話し合いを進めました。「決めるのは自分たち!」、「農業をする人もしない人も安心して住める集落へ!」という共通認識のもと、内容の濃い話し合いが行われました。

今回は「集落全員参加をめぐる、地権者・出資者・法人役員それぞれの権利と役割・義務・責任」をテーマに、研修会を開催予定です。

今年度の活動は、役員対象の研修・意見交換を中心に進め、集落ビジョンを作成し、地域住民への理解を進めていくこととしており、普及センターでは関係機関と連携しながら支援を行ってまいります。

○JA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました

令和3年8月13日
美里農業改良普及センター



7月20日にJA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました。

当日はコロナ禍であったため開催規模が縮小され、参加者は例年よりも少なくなりましたが、天候に恵まれ、牛・人とも暑さに負けず、審査が行われました。出品された牛は、事前に調教や牛体洗浄を重ね、丁寧に仕上げられ、どの牛も磨きのかかった状態での出品でした。

黒毛和種雌牛としての特徴、種牛性の優れた牛が多い中、審査が進められ、各区とも接戦の末、入賞牛が決まりました。

上位入賞牛については、9月8日に行われる宮城県総合畜産共進会において、「みどりの代表牛」として出品されることとなります。

○集落営農法人が事業承継をテーマに先進地研修を実施!

令和3年8月18日
石巻農業改良普及センター



東松島市の農事組合法人奥松島グリーンファームは平成27年に設立され、津波で被災した野蒜地区の農地約95haで水稻や大豆の栽培を行っています。課題は、役員平均年齢が60代の今、将来を考え、計画的に後継者を確保・育成することです。そのため、7月15日に、被災農地で営農している岩沼市の農事組合法人玉浦中部ファームを視察しました。

(農)玉浦中部ファームは75才定年制を導入し、会社の10年後の姿を具体的に想像できる中長期計画を中小企業診断士の指導により作成、これに基づき、新たに社員を雇用するため、就業規則や雇用契約書を整備するとともに、新入社員が仕事をしやすい環境

づくりとして、スマート農業を導入した農作業体系を整備していました。

参加した役員・社員は、ほ場管理ソフトやドローンによる農薬散布、GPS付きトラクター等の活用及び出資金の継承など、先進的な取組に熱心に質問をしていました。普及センターでは、(農)奥松島グリーンファームの円滑な事業承継に向けた話し合いを引き続き支援していきます。

○農業法人職員の社会人基礎力向上セミナーを開催しました
令和3年8月19日
登米農業改良普及センター



7月14日、26日、8月6日の3日間にわたり、登米合同庁舎で、社会人としての資質と組織力の向上を目的とした社会人基礎力向上セミナーを開催し、農業法人の職員14人が参加しました。セミナーでは、コミュニケーションやリーダーシップなどのヒューマンスキルの醸成、職場内でのキャリアビジョンの自己設計等について学びました。

講師にホライズンコンサルティンググループ(株)の庄司代表取締役を迎え、参加者は他社の社員と4人程度のグループを組み、講義やグループワーク、実演等に取り組みました。「組織とは何か」、その組織で自身の成長のために「身につけるべきスキルとは何か」など、苦手としている部分の克服に向けたポイントを学びました。特に、若い参加者の多くは会話を苦手としていることから、コミュニケーション力の向上に多くの時間を割き、自己改善に取り組みました。

また、OJT計画の作成実習では、先輩が後輩に対し目標の設定や達成に向けた業務などのアドバイスをする場面も見られ、リーダーシップも醸成されているようでした。

○岩沼市で加工用ばれいしょの収穫が始まりました
令和3年8月20日
巨理農業改良普及センター



岩沼市の土地利用型法人・農事組合法人長岡グリーンサポートでは、大区画に整備された水田で、今年から(株)カルビーポテトとの契約による加工用ばれいしょの栽培を行っています。

ばれいしょは、3月下旬に種いもの植え付けが行われており、4月下旬の遅霜等の影響もありましたが、培土作業や病害虫防除等を行い、8月5日から収穫が始まりました。初めての収穫ということもあり、機械の調整も念入りに行われ、関係機関が見守る中、作業が始まりました。

本県では、大区画ほ場を活用した露地園芸を推進しており、普及センターでは、関係機関と連携しながら、加工用ばれいしょの安定生産技術の確立に向けた支援を行ってまいります。

○大豆検討会を開催しました
令和3年8月23日
登米農業改良普及センター



8月4日に登米市米山町域で大豆の現地検討会を行い、現地ほ場5か所を巡回しました。大豆は開花が始まり、病害虫の発生も少なく、生育は概ね順調であることを確認した後、生産者やJA担当者とともに今後の管理について意見を交わしました。

普及センターからは、現在大豆の生育状況を踏まえて、開花後の病害虫防除を中心に、作業のポイントを説明しました。

○大崎市田尻に新たな農事組合法人が設立されました
令和3年8月30日
美里農業改良普及センター



8月18日、大崎市田尻大貫地区に新たな農事組合法人「おおぬき彩土里(いろどり)ファーム」が設立されました。

この地区の担い手である集落営農組織「大貫長根営農組合」は、地域で高齢化が進む中、地域農業の受け皿として核となる法人を設立することを目指し、

令和3年2月に発起人会を立ち上げ、熱心に話し合いを重ねてきました。この間、普及センターでは、発起人会での検討が円滑に進むよう、関係機関と連携した支援を行ってきました。事業計画や法人運営ルール等、検討事項は多岐にわたりましたが、発起人の方々は積極的に意見を出し合い、法人の目指す姿を具体化することができました。

8月8日には法人設立総会が開催され、構成員全員が一堂に会し、新たなスタートを切りました。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「新規就農者向け経営研修会」を開催しました

令和3年8月5日

登米農業改良普及センター



7月21日、登米合同庁舎において、令和3年度みやぎ農業未来塾「新規就農者向け経営研修会」を開催しました。今回の研修会では、新規就農者が経営を見える化し、資金の流れを把握することや予実管理（予測と実績）の大切さについて学ぶ機会としました。

講師の中小企業診断士・本田茂先生（HSコンサルティング(株)）から、予実管理の手段としての資金繰り表の活用について講習を受け、さらに例題による資金繰り表の作成演習も行いました。また、各自の経営に対し、個別に相談を受ける時間をとりながら研修を進めました。

参加者からは、「申告はしているが、月毎に書いてみるとお金の流れが分かりやすい。」「決算書で全体は見えるけれど、お金の流れや細かいところまでは見えてなかったのので、試しに作成してみたい。」等の意見があり、経営の流れを把握するための資金繰り表の大切さを学んだ研修会となりました。

○農業大学の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました

令和3年8月5日

仙台農業改良普及センター



この春に農業大学校へ入学した学生が、9月6日10月8日までの33日間、県内の先進的な農家で体験学習を行います。これに先立ち、当普及センター管内で体験学習を行う学生10名が来所し、学習にあたっての注意事項や、お世話になる農家はどのような経営をしているところなのかについて学習しました。

学生たちは初めのうちは緊張した様子でしたが、体験学習で何を学びたいか、また、卒業後の進路はどうしたいのかなど、普及センター職員の質問にしっかりと答えていました。

体験学習は、技術的なことを学ぶだけでなく、農家の生活サイクルを学ぶことのできる貴重な機会です。学習を終えるときには、今よりも成長した姿が見られることでしょう。終了後の姿が楽しみです。

普及センターでは今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○大崎4Hクラブが親子の農業体験(小学生向け)で栽培指導をしました

令和3年8月6日

大崎農業改良普及センター



7月11日に大崎生涯学習センター主催の『親子でいっしょに農業体験&家庭菜園講座～トマト～』が開催され、約30名の親子が参加しました。

このイベントは大崎地域の親子(小学生向け)を対象に、農業体験を通して食育に対する理解を深め、身近な自然環境について自ら進んで課題を見つけ、学び、考える力を養うことを目的に開催される全3回の体験型学習です。大崎4Hクラブでは、このイベントを平成24年から継続して支援しており、企画や準備等を学習センターと連携して取り組んでいます。

当日は気持ちのよい青空の下、トマトのバックカルチャーへの植え付けを行いました。4Hクラブ員は、植え方について丁寧に説明したり、参加した親子と一緒に作業を行いました。普及センターでは、今後も大崎4Hクラブの活動を支援していきます。

○大崎4Hクラブの視察研修会を開催しました！

令和3年8月10日

大崎農業改良普及センター



大崎4Hクラブでは、クラブ員の資質向上を図るため、毎年視察研修会を実施しています。

今年は水稻や大豆の生産に関わっているクラブ員も多いことから、スマート農業への理解を深めることを目的として、古川農業試験場の視察研修会を実施しました。水田営農部の研究員からの講義では、走行アシスト田植え機などの動画を見せていただきながら、それぞれの機械への理解を深めていました。

施設見学では、自動給水システムや走行アシスト田植え機を使って定植されたほ場を見学すると、技術がより身近に感じられ、「自分のほ場ではこのような使い方ができるのではないかな？」など、意見交換が盛り上がっていました。

クラブ員からは、「古川農業試験場は地元の施設だが、訪れたことはなかった。とても実のある研修になってよかった」との声が聞かれました。普及センターでは今後も4Hクラブ員の関心の高い研修会の開催を支援し、将来地域の核となる担い手の育成に取り組んでいきます。

○就労環境整備に関する研修会「これからの農業は女性と輝く!!」を開催しました 令和3年8月12日 栗原農業改良普及センター



8月10日、栗原合同庁舎において、農業法人・農業経営体研修会「これからの農業は女性と輝く!!」を開催し、管内の農業法人等14名が参加しました。

本研修会は、栗原で農業に携わる女性と農業法人、農業経営体が生き生きと活躍することを目的に、いち早く就労環境整備に取り組み、実践している先進事例を学ぶとともに、関連する支援事業について情報提供したものです。

先進事例として、岩手県一関市の有限会社かさい農産の葛西亮介取締役社長より、「社員一人一人が輝ける職場を目指して」と題して基調講演をいただきました。

かさい農産は人材確保の中で、子育てにより通常の勤務時間で働くことが困難な女性の面接をきっかけに、社員一人一人のライフステージに対応した勤務時間・休日を形成し、社員全員が家庭を中心に働ける職場環境を実現しています。そのために、誰が見てもその作業ができる業務マニュアルの作成や、社員全員が様々な業務をやってみること（クロストレーニング）で、社員の誰が休んでも皆でカバーできる「多能工化（たのうこうか）」に取り組んでいることを紹介いただきました。

柔軟な経営形態と経営発展を遂げている事例に、参加者の多くが大変刺激を受けたようです。

女性は、農業や地域の活性化において重要な役割を果たし、農業経営の担い手として大きく期待されています。日本政策金融公庫の調査では、「女性が経営に関与している農業経営体は収益が増加している」という結果が出ており、国や県では農業の成長産業化と誰もが自分らしく活躍できる就労環境の実現に向けて、女性の活躍に積極的に取り組む農業法人や農業経営体を応援しています。

普及センターでは、今後も女性をはじめとした働き手の皆が輝けるよう、農業法人や農業経営体における就労環境の整備を支援していきます。

○中山間地の農地整備事業における担い手育成について協議しました 令和3年8月17日 大崎農業改良普及センター



8月10日に大崎市岩出山下真山地区の農地整備事業推進委員会四役会に出席し、担い手育成に向けた今後の活動について協議しました。

下真山地区では農地整備事業を契機に、高収益作物の導入や地域を将来にわたり担う担い手の組織化を目指しています。普及センターでは今年度より「下真山地区における農地整備事業を契機とした地域農業の発展」と題したプロジェクト課題を実施しており、市や県農業農村整備部と連携し取り組んでいます。

今回は下真山に3つある地区それぞれの意向確認を行い、その中で出てきた担い手の組織化への疑問点などについて情報提供しました。普及センターからは担い手候補全員へ改めて事業要件の周知や法人化の疑問点に答えるための研修会を行うことを提案し、市役所の協力のもと開催することが決定されました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、農地整備事業を契機に地域での話し合いを進め、新たな活力ある地域農業の体制づくりに取り組んでいきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○需要期出荷に向けた新たな露地電照技術による夏秋ぎく栽培の現地検討会を開催しました 令和3年8月6日 気仙沼農業改良普及センター



お盆やお彼岸の需要期出荷に向けた計画生産を可能にするため、今年度、普及センターでは県農業・園芸総合研究所（以下、農園研）と連携し、南三陸町内の2か所に赤色 LED を用いた夏秋ぎくの露地電照栽培実証試験ほ場を設け、現地適応性等を確認しています。

これは、これまでに普及してきた白熱球よりも電照効果が高く、消費電力や寿命の観点からもより有用だと考えられている赤色 LED を用いた技術で、電照による開花調節効果が安定している品種と組合せて栽培実証しているものです。

7月21日には農園研と共催で実証農家である（株）小野花匠園を会場に、現地検討会を開催しました。県内の生産者、JA、関係機関等約40人に参加いただき、お盆出荷を狙った作型で供試している13品種の栽培状況を視察して、赤色 LED の開花調節効果を確認しました。

参加者からは、「電照をせずに露地栽培をしているが、需要期よりも開花が早く進んでしまっている。露地電照栽培の必要性を実感した。」との声も聞かれ、技術に対する関心の高まりが見られました。普及センターでは引き続き、農園研と連携しながら農家所得を向上させるため、技術の確立と普及拡大に向けて取り組んでまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JAみやぎ登米なす部会現地検討会が開催されました 令和3年8月3日 登米農業改良普及センター



7月21日、JAみやぎ登米なす部会の部会員が参加し、登米市石越町のほ場で現地検討会が開催されました。

現地検討会では肥料メーカーの担当から肥培管理のポイントについて説明がありました。また、普及センターからは高温期のかん水や施設内温度管理のポイントを説明したほか、農作業時の熱中症対策等の安全対策を徹底するよう注意喚起を行いました。

部会では、良質ななすの安定出荷に向けた活動を継続していく予定です。

○シャインマスカットの栽培支援に取り組んでいます 令和3年8月4日 農業振興課



7月8日、果樹担当の普及指導員を対象に専門項目別集合研修を行いました。

研修では試験場での試験成績の紹介、各管内における果樹の情報交換等を行った後、試験場の園地でシャインマスカットの摘粒技術の確認を行いました。こういった研修に加え、今年度はweb会議システムを利用し、各普及センターと試験場、県庁とで適宜情報交換を行っております。

県内のシャインマスカットの栽培に取り組む生産者を支援するため、これからも普及指導員の資質向上に取り組んでまいります。

○上余田芹（せり）出荷組合のせり種田調査を行いました！ 令和3年8月5日 亘理農業改良普及センター



7月28日に、上余田芹（せり）出荷組合のせり種田の調査を行いました。

生産者8名とJA名取岩沼、農業・園芸総合研究所、普及センターの各担当者が、組合員18戸の各ほ場で

葉色や茎の太さ、病害虫の有無等の調査を行い、全体的に良好な生育をしていることが確認されました。今回調査した種せりは、本田に植え付けられ、年末に出荷される予定です。

普及センターでは、今後もせりの安定生産に向けて、支援していきます。

○大阪市場向けさく類の現地検討会を行いました 令和3年8月6日 仙仙沼農業改良普及センター



お盆向けさく類の出荷まで後1か月と迫った7月7日に、大阪鶴見花き地方卸売市場の花き卸である(株)なにわ花いちばの担当者を招いて現地ほ場を巡回し、栽培状況を確認しました。(株)なにわ花いちばでは、「アジャストマム」と称される「こなさくがあつたらいいな」という花屋さんの声にアジャストさせて生産し、生産地と消費地のムダを省いた商材を流通させる取組を行っており、本県からは南三陸町のフローリッシュ生産組合を筆頭に登米市、石巻市、大崎市、栗原市の生産者が連携して出荷を行っています。

現地検討会には生産者8人が参加し、南三陸町と登米市内の輪ぎくと小ぎくの生産ほ場を巡回しました。普及センターからは出荷までの病害虫防除の徹底を呼びかけたほか、市場担当者からは、「コロナ渦であるが、お盆用の国産さく類の需要はより高まっており、確実に販売できると考えている。8月第1週からたくさんのお盆用出荷を期待している。」との心強い説明があり、出荷に向けて意欲の高まる検討会となりました。

○登米市産ひまわりを登米市教育資料館にて展示中 令和3年8月6日 登米農業改良普及センター



国の重要文化財に指定されている登米市教育資料館(旧登米高等尋常小学校校舎)において、花の産地「登米市」のPRのため、7月21日から登米市産の「ひまわり」を登米市産木材で作成したプランターで装飾した展示を行っています。

展示場所は、教育資料館東側入口で、同会場で開催中の「おかえりモネ展」の入口となっています。展示期間は、8月17日までの予定です。また、併せて登米市役所庁舎及び中田庁舎でもひまわりの展示を行っています。お近くにお越しの際は、是非御覧ください。

普及センターでは、今後も、産地PRと地元産花きの販売促進に向けた支援を行っています。

○自社農園で栽培したぶどうを100%使用した ワインの完成報告について 令和3年8月10日 仙台農業改良普及センター



8月2日、株式会社みらいファームやまと(仙台市)の早坂了悦代表と美代子さんが知事への表敬訪問を行いました。同法人は、大和町で2016年から醸造用ぶどうの栽培を開始し、翌2017年に「了美ヴィンヤード&ワイナリー」を整備してワインづくりをスタートしました。栽培から5年が経過し、自社農園で生産したぶどうのみを原料としたワインが初めて完成したため、知事への謹呈が行われたものです。

ワインは、2020年産のメルローとシャルドネを原料とした赤ワイン「ラセリー了」と白ワイン「ラセリー美」の2種類で、代表御夫妻の名前が付けられています。栽培に関しては、当普及センターや農業・園芸総合研究所などが協力して支援をしてきました。

報告の中で、早坂社長からは「農園の立地する中山間地域の活性化や、観光資源になり得る収益性の高い農業の展開を目標としている」と話題が出され、知事からは「県が進める園芸振興で更に付加価値を高め、1次産業の振興につなげてほしい」との期待の言葉がありました。

同法人は、自社農園敷地内に直売所を併設したレストランを令和2年に開業しており、ぶどう畑やセツ森など自然のロケーションを満喫しながら食事やワインが楽しめる人気のスポットになっています。普及センターでは栽培技術の支援を継続しながら、新たな取組に対しても応援して参ります。

○アスパラガス販売戦略会議の開催
令和3年8月11日
石巻農業改良普及センター



7月28日にJAいしのまき農業情報センターでアスパラガス販売戦略会議を開催しました。パイオニアエコサイエンス(株)の松永邦則氏を講師に、JAいしのまき、(株)石巻青果、(株)水沢種苗から情報提供を行い、生産者ら17人とアスパラガスの販売方法等を検討しました。

講演では、松永氏から4月の遅霜被害などアスパラガスの作柄を解説した後、長崎や北海道等の産地ブランドや遮光による4色アスパラなど販売の工夫事例をお話していただきました。

石巻普及センターからは管内の生産状況と直売所等での販売について、JAいしのまきからはサツマイモとアスパラガスで参入する際の初期費用の支援策について情報提供を行いました。(株)石巻青果からは山形や福島産の取扱い、量販店での販売状況、地元産が是非ほしいこと、(株)水沢種苗からは直売所での4月から9月の販売状況について話題提供がありました。

情報交換では、採りつき栽培は輪作体系が重要、施設立茎栽培は安定生産できる、太いアスパラは人気が高い、紫色や白色の販売も面白いことなど様々な意見が出されました。令和4年春から出荷量が増えることから、採りつき栽培と施設立茎栽培を組み合わせたアスパラガス産地を育成し、市場出荷や直売所販売を中心に販売戦略を考えていくことにしました。

○らっきょう栽培講習会が開催されました
令和3年8月12日
栗原農業改良普及センター



8月3日、JA新みやぎ栗このらっきょう栽培講習会が同JA栗駒中央支店で開催され、管内のらっきょう生産者9名、JA新みやぎ栗この担当者、普及センターの担当者が出席しました。

JAの担当者からは、令和3年産らっきょうの販売経過について、東京都中央卸売市場の実績資料を踏まえて、説明がありました。今年是他産地の出荷量が多かったことや、6月下旬に野菜全般の荷動きが低迷したことにより、低相場の推移となりました。

普及センターからは、らっきょうの栽培技術のポイントとして、分球を確保し収量を高めるために適期植付けを行うことや、乾腐病とネダニ防除のために種球の消毒を実施することなどについて、説明を行いました。参加者らは、今年度単価が低かったことから、2年物を収穫するための管理方法や、出荷の形態について、様々な意見交換を行いました。

普及センターでは、らっきょうの安定生産に向けて、継続して支援を行っていきます

○JA古川で秋冬春菊栽培講習会が開催されました
令和3年8月17日
大崎農業改良普及センター



7月30日にJA古川北部支店において秋冬春菊栽培講習会が開催されました。講習会にはおよそ20名の生産者が参加し、今年の秋から冬にかけて収穫を行う春菊の栽培管理方法や病虫害防除方法の確認を行いました。

始めに(株)渡辺採種場瀬峰農場の研究員から、春菊の特性や栽培管理方法について説明がありました。続いて普及センターからは、例年発生が多い病虫害の特徴や登録農薬について情報提供を行いました。また、抵抗性病虫害の発生を防ぐため、農薬を系統毎に分類したIRACコードやFRACコードを活用して、異なる種類の農薬をローテーションで散布するように指導しました。生産者からは目に見えづらい小さな害虫について、どのように観察し発生していると判断したら良いかなど積極的に質問がありました。

本講習会を通して、病虫害の適切な防除技術を生につけることにより、品質の良い春菊の生産が期待されます。

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会現地検討会が開催されました
令和3年8月17日
美里農業改良普及センター



8月6日に仙台小ねぎ部会の現地検討会が開催され、2カ所の生産者のハウスにおいて、試験品種や土壌改良資材の施用効果等の検討が行われました。普及センターでは、昨年度から仙台小ねぎ部会とプロジェクト課題に取り組んでおり、今回は改良型太陽熱土壌消毒と高温障害対策資材の実際の実取組状況を部会員の方々に見学していただきました。実証結果については、今後の研修会場で情報提供していく予定です。

当日は、実際の小ねぎの生育状況を観察しながら、品種特性に適した栽培管理や、資材の収量品質向上効果等について、部会員間で活発な情報交換が行われました。普及センターでは、今回の現地検討会で頂いた意見を参考に、引き続き栽培技術等の支援を行ってまいります。

○JAみやぎ登米寒じめ野菜部会の栽培講習会が開かれました

令和3年8月18日

登米農業改良普及センター



8月6日に、登米市豊里町でJAみやぎ登米寒じめ野菜部会の生産者約15名が参加して栽培講習会が開かれました。

初めに(有)藤種苗商事の熊谷氏を講師に、ちぢみほうれん草の病害虫防除や施用する肥料の注意点について、続いて(株)渡辺採種場の鈴嶋氏を講師に、ちぢみ雪菜のは種時期や使用する資材について学びました。全農みやぎからは寒じめ野菜の販売情勢について説明がありました。普及センターからは、播種時期のこまめな天気の確認や、排水対策の徹底について注意喚起を行いました。

播種は9月中旬以降となりますが、普及センターでは、今後とも良質な寒じめ野菜出荷に向けて支援を行ってまいります。

○JAいしのまきせり部会現地検討会が開催されました

令和3年8月19日

石巻農業改良普及センター



8月2日にJAいしのまきせり部会の現地検討会が開催されました。石巻市河北地区では、ブランド力向上のため「河北せり」として、令和2年12月に県内青果物初のGI登録を行っています。

現在のほ場の状況は、5月下旬に親ぜりほ場の地上部を全面刈り込み、種ぜりとなるランナーの発生・伸長を促しています。

現地検討会には部会員12名が参加し、各ほ場を巡回しながら栽培管理、病害虫管理について検討を行いました。親ぜりほ場の生育は順調であり、病害虫及び雑草防除や、生育ムラを解消する追肥が適切に行われていました。これからの防除対象となるモトグロヒラタマルハキバガ(シンクイムシ)やチョウ目害虫の食害や寄生が確認されたため、防除を実施するよう助言しました。

普及センターでは今後もほ場の巡回等を行いながら、良品質・多収量のせり生産を目指して技術指導を行ってまいります。

○加工用トマトの収穫が始まりました

令和3年8月23日

亘理農業改良普及センター



亘理町で大規模に露地野菜栽培に取り組む(株)建部商会は、昨年に引き続き加工用トマトの栽培を行っています。今年は6haの面積に、約10万本の苗を5月上旬から順次作付けしています。

本年は梅雨の大雨はほとんどなかったことから、果実は順調に着果・肥大しました。梅雨明け後の好天で一気に着色が進み、計画どおり8月3日から加工用トマトの収穫が始まりました。

収穫は、株ごと抜き取り、一斉収穫する方式で行っています。今年初めて機械収穫に取り組んだこともあり、最初は機械操作や収穫された果実の選別に時間がかかりましたが、現在は滞ることなく、真っ赤なトマトがコンテナに積まれ収穫されるようになりました。

収穫されたトマトはその日のうちにメーカーの加工工場に運ばれ、国内産製品として加工されるということです。この法人のトマト収穫は、9月上旬まで続く予定です。

○下余田地区のせりの種田調査に参加しました
令和3年8月23日
巨理農業改良普及センター



名取市下余田地区では、古くからせりの栽培が盛んに行われています。芹出荷組合では、毎年8月に、年末に植え付けるせり種田の出来を調査することになっています。

今年の種田調査には、組合員、JA、普及センター担当者が参加し、各ほ場を回って生産者自ら調査を行いました。今年は天候に恵まれたことから、せりの伸び・ランナーのふき具合がよく、どのほ場の種も良好な生育となっていました。午後は検討の場として、組合長をはじめ、各組合員から感想や意見が多数出されました。

各ほ場を巡回する中で、今年から作付けされた新品種「Re14-4」の生育についても確認することができました。本年産の年末せりの出荷に期待し、調査会は終了となりました。

普及センターはこれからも新品種導入を含め、せりに関する支援を継続していきます。

○産直野菜塾が開催されました
令和3年8月24日
栗原農業改良普及センター



8月5日、JA新みやぎ栗っこの産直出荷者や出荷希望者を対象とした「産直野菜塾」が開催されました。

昨年7月にJA新みやぎ元気くん市場仙台南店がオープンし、また、今年7月にはイオンスーパーセンター志波姫店の産直コーナーが拡大したことを踏まえ、産直出荷者の確保と品揃えや出荷物の品質向上を目指し開催されたもので、生産者20人ほどが参加しました。

野菜塾では、秋冬野菜の栽培管理について渡辺採種場瀬峰研究農場の宮川氏が、病害虫防除の基本について普及センターが説明を行い、生産者はハクサイやキャベツのおすすめ品種の特徴や栽培のポイント

ト、病気が発生しにくい環境づくりと農薬の適切な使い方などを学びました。

参加者からは、ハクサイやキャベツの育苗期の防除や、カボチャやナスの今後の管理方法など幅広い質問が寄せられ、出荷に向けた意欲が伺えました。産直への出荷を増やすことにより、農家の所得向上に繋がるのが期待されます。

○大郷町前川地区でえだまめの収穫が始まりました
令和3年8月25日
仙台農業改良普及センター



大郷町前川地区では3法人が今年からえだまめ栽培に取り組んでおり、このうち農事組合法人かすかわが、8月10日に初めての収穫を迎えました。朝日が昇る朝5時に組合員がほ場に集まり、JA新みやぎあさひな地区本部が県事業を活用して導入した枝豆コンバインを使用し、収穫を行いました。今回の収穫作業は、初稼働となる枝豆コンバインの試運転を兼ねていたため、これから収穫期を迎える有限会社薬師農産の社員も見学に訪れ、一緒に作業を行っていました。収穫された枝豆は、野菜集荷場に運ばれて、粗選別、洗浄、脱水を経て、保冷車で全農みやぎのパッケージセンターへ出荷されました。

出荷されたえだまめは、「仙台えだまめ」として県内の量販店の店頭に並びますので、是非御賞味ください。

普及センターではJA新みやぎあさひな地区本部及び大郷町と連携し、今後も継続して生産者を支援していきます。

○巨理地域では「シャインマスカット」PR用ロゴマークの作成を検討中です!
令和3年8月26日
巨理農業改良普及センター



巨理農業改良普及センターでは、シャインマスカットの栽培技術や省力化技術の向上の他、産地PR支援を目的にプロジェクト活動に取り組んでおり、関

係機関と連携し、地域のシャインマスカットを使った商品開発を支援しています。

8月20日、今後完成予定のスイーツ商品販売者や、地域の生産者が共通で利用可能な産地のロゴマーク作成に向け、商工会や役場等の関係者とともにデザイン案の打ち合わせを行いました。

打ち合わせでは、県内在住の渡邊樹恵子デザイナーより、共通ロゴマークの役割や効果的な活用方法等について御指導をいただきながら、渡邊デザイナーが作成したロゴマーク案について、参加者で意見交換を行いました。今後、完成したロゴマークは、地域内のスイーツ販売店やシャインマスカット販売所、関係機関等の多方面で産地PRに向けて活用する計画です。

普及センターでは、今後も当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水稲「つきあかり」肥料展示ほ現地検討会が開催されました

令和3年8月2日

登米農業改良普及センター



7月21日、つきあかり生産者4名、農協職員6名が参加し、管内のつきあかり肥料展示ほで現地検討会が開催されました。

つきあかりは、高い収量性があり、炊飯米の外観にも優れ、大粒で食味が良い早生品種で、JAみやぎ登米が業務用米として導入をすすめています。

検討会では、3か所（迫町、南方町、米山町）のほ場を巡回し、普及センターの職員が葉色や幼穂長を測定して、追肥の有無や今後の栽培管理について検討が行われました。7月は平均気温が平年並から高く推移し、順調に生育が進み、出穂期も早まる見込みです。

○大豆の現地検討会が開催されました

令和3年8月2日

大崎農業改良普及センター



7月28日に、JA加美よつば管内で第2回大豆現地検討会が、加美町中新田地区ほか2地区のほ場で開催されました。検討会には生産者の他、JA加美よつば、肥料会社及び普及センターの担当者が参加しました。

普及センターから今後の管理として、病虫害防除に向けた大豆の開花状況の確認や排水対策、干ばつ対策、開花後の病虫害防除対策を説明しました。肥料会社の担当者からは、開花後の葉面散布肥料の説明がありました。出席者からは、今年は開花が早まっており、防除の準備を早めに行わなければならないため、中耕培土をこれから実施できるか、病虫害防除のスケジュール等の質問が出され、大豆の生育を確認しながら意見交換を行いました。

普及センターでは、引き続き大豆の高品質安定生産に向け、きめ細やかな支援を行っていきます。

○JA古川肉牛部会巡回検討会が開催されました

令和3年8月6日

大崎農業改良普及センター



7月19日～26日の4日間、関係機関・獣医師・部会役員・JA肉牛担当が全部会員を戸別訪問し、指導・検討を行うJA古川肉牛部会の現地巡回指導会が開催されました。

巡回検討会では、獣医師による牛の健康状態の確認や、部会役員による飼養管理状況や畜舎内外の清掃状況、家畜排せつ物の処理状況の確認と改善検討を実施しました。各畜舎ごとに夏場の暑熱対策や飲水の改善を主体に、生産性の向上と事故防止に向けた改善検討と、家畜排せつ物処理の適正な管理の確認や、改善に向けた情報提供が行われました。

JA古川肉牛部会では、巡回検討会の継続実施により、飼養管理技術の向上による肉牛経営の安定を図ることとしています。普及センターでは、関係機関と連携し肉用牛の安定生産に向けた指導を行っていきます。

○JA古川大豆現地検討会が開催されました

令和3年8月17日

大崎農業改良普及センター



8月11日に、JA古川管内で大豆現地検討会が開催されました。検討会には生産者の他、JA古川、肥料会社及び普及センターの担当者が参加しました。

普及センターからは、現在の大豆生育状況と今後の管理として、大豆の開花状況の確認や排水対策、干ばつ対策、開花後の病虫害防除を説明しました。肥料会社の担当者からは、新しい肥料の説明がありました。出席者からは、前年、中生品種の「タンレイ」で紫斑病が多かったため、効果的な防除方法や大豆生育中期の除草剤の使用方法について質問が出され、大豆の生育を確認しながら意見交換を行いました。

普及センターでは、引き続き大豆の高品質安定生産に向け、きめ細やかな支援を行っていきます。

○飼料用トウモロコシの展示ほの生育状況について

令和3年8月18日

大河原農業改良普及センター



左：スノーデント 125T

右：ゴールドデント KD777NEW

大河原管内では、生産性の高い飼料用とうもろこし奨励品種の普及拡大を推進するために、展示ほを設置しています。展示ほでは、宮城県の奨励品種であるスノーデント 125T (SH2821) 及びゴールドデント KD777NEW を作付しています。7月28日に管内の展示ほにおいて、飼料用作物展示ほの検討会が行われました。今年は例年に比べて梅雨が短く、高温が続いたため、生育が早まっている可能性があるものの、生育は順調であることを確認しました。

写真は8月12日時点の2品種です。スノーデント 125TはRM125の中生種、ゴールドデント KD777NewはRM127の中生種です。RMとは、Relative Maturity (相対熟度)の略で、とうもろこしの早晩性を表す数値として、アメリカを中心に使われています。播種は両品種とも5月14日で、現在は雄穂及び雌穂が出穂しています。

普及センターでは、飼料用作物の増産に向け今後も調査を行い、技術支援をしていきます。

○大豆種子生産ほ場の第1期ほ場審査を行いました

令和3年8月26日

登米農業改良普及センター



登米管内では、約38.7haの採種ほ場で「タチナガハ」と「ミヤギシロメ」の大豆種子を生産しています。

県は「主要農作物種子条例」に基づき、「ほ場審査」と「生産物審査」を行っており、8月11日と8月20日に第1期「ほ場審査」(開花期)を実施しました。

採種ほ場から生産される種子は県内の農家に供給され、翌年の大豆生産に使われるため、大豆種子の基準は、種子伝染性の病虫害種子を含まないこと、発芽率80%以上などと厳しく定められています。今回の審査では、全ほ場合格となりました。

普及センターでは、引き続き第2期「ほ場審査」(成熟期)及び「生産物審査」を実施し、優良種子の安定供給が図られるよう支援してまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○色麻町の特産品「えごま」の生育調査を行いました！

令和3年8月20日

大崎農業改良普及センター



8月6日に、色麻町の特産品である「えごま」の生育調査を行いました。色麻町でのえごま栽培は、平成12年から始まっており、今年は28ha程度作付けされています。

生育調査は、色麻町えごま栽培推進協議会の事業の一環として、生育状況を把握するために、毎年2回ほど行っています。今年も、色麻町役場職員と普及センター職員が町内4カ所に設置した調査ほ場を巡回し、草丈、節数を測定しました。今年は定植後の天候が安定していたため、昨年よりも草丈が伸長し、順調に生育しているほ場が多くみられました。

次回は、9月上旬に行う予定です。普及センターでは今後も色麻町の特産品である「えごま」の生産振興に向けて支援を行っていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.175

発行日:2021年9月24日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp